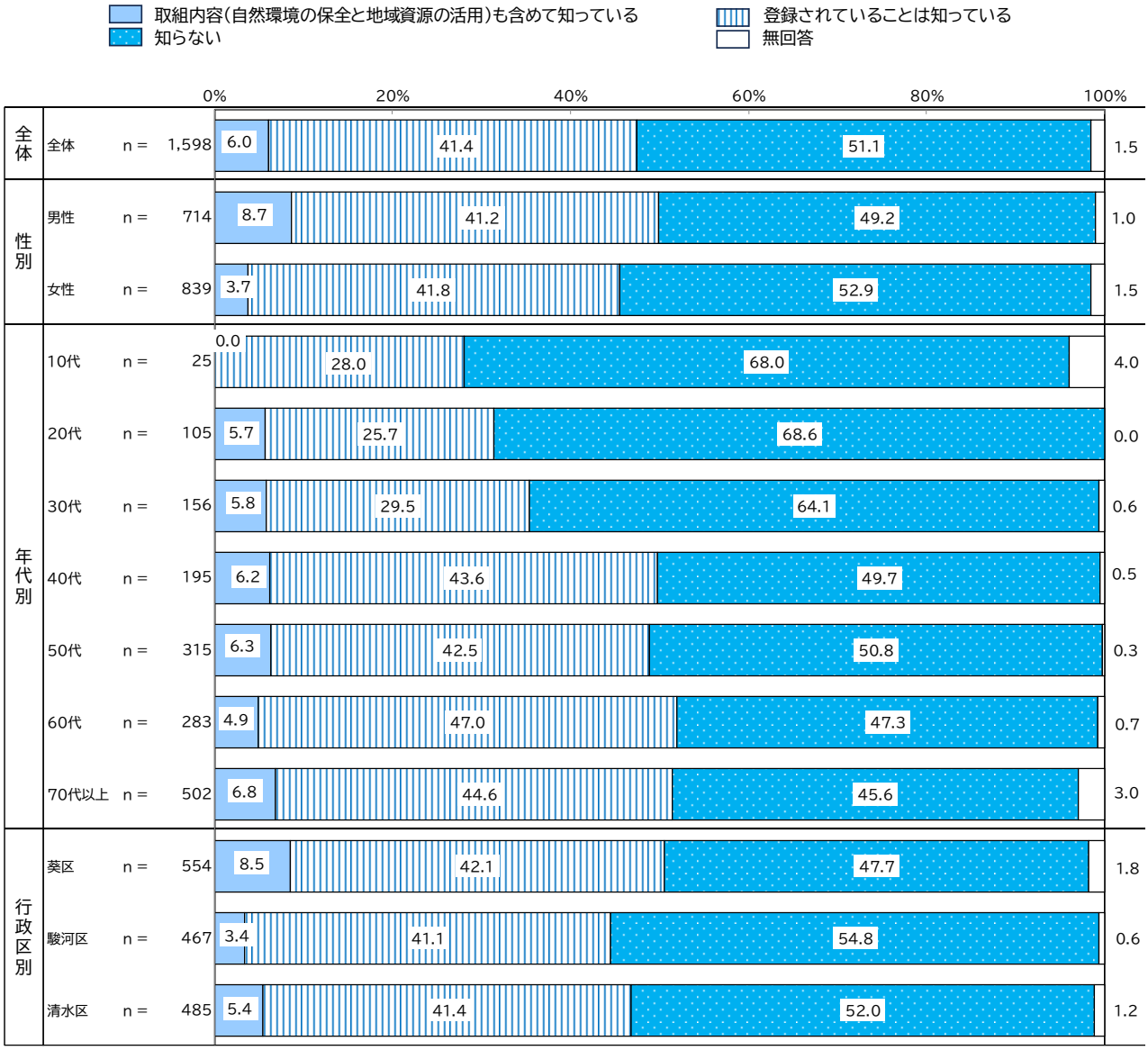
# 8. 自然環境

問1　あなたは、南アルプスが「ユネスコエコパーク」に登録されていることを知っていますか。
（○は1つ）

南アルプスが「ユネスコエコパーク」に登録されていることの認知については、「知らない」が51.1%と最も多く、次いで「登録されていることは知っている」41.4%、「取組内容（自然環境の保全と地域資源の活用）も含めて知っている」6.0%となっています。



性別でみると、「知らない」は男性49.2%、女性52.9%となっています。「登録されていることは知っている」は男性41.2%、女性41.8%となっています。「取組内容（自然環境の保全と地域資源の活用）も含めて知っている」は男性8.7%、女性3.7%となっています。

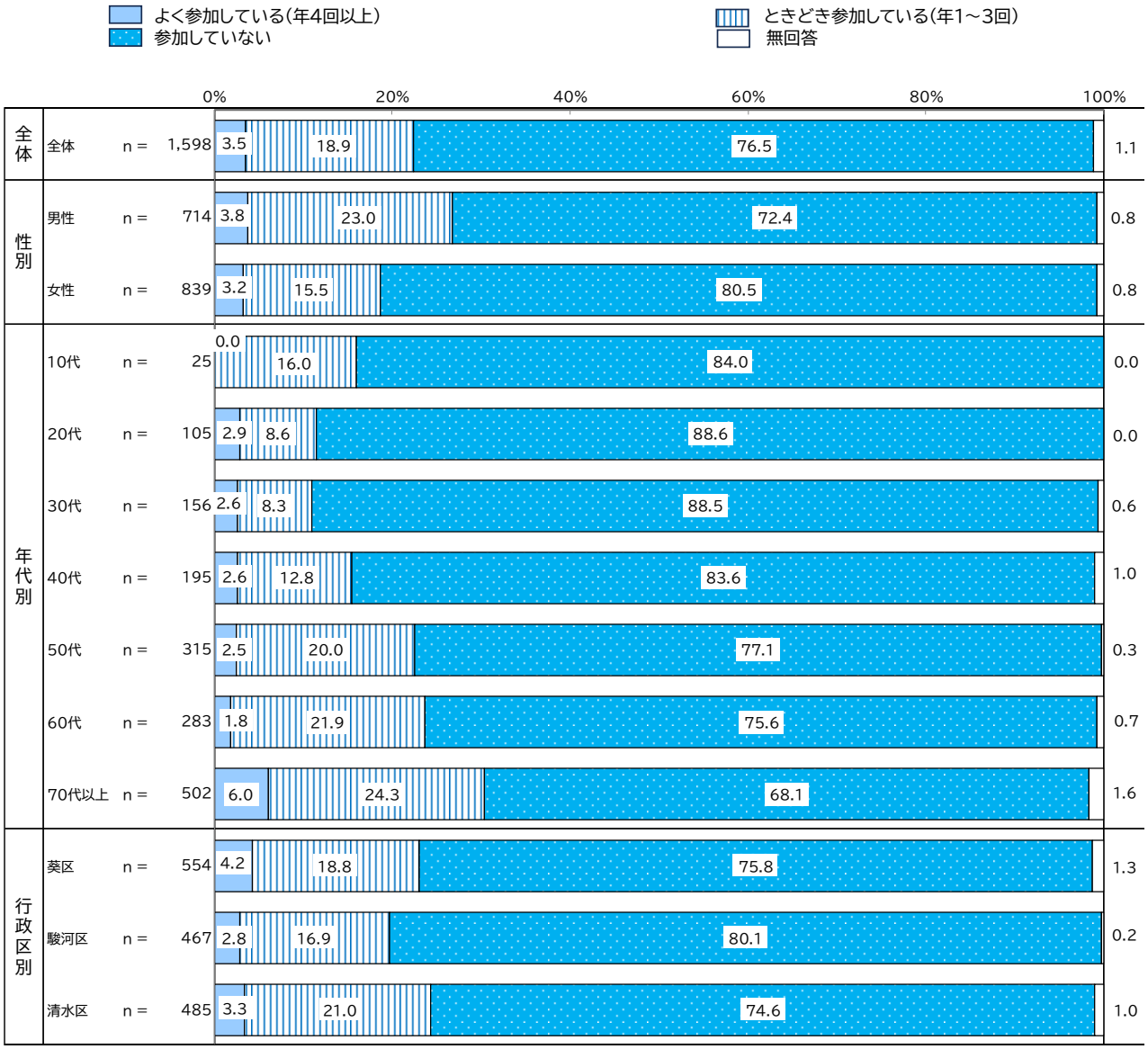
年代別でみると、「知らない」は20代68.6%、10代68.0%、30代64.1%の順になっています。「登録されていることは知っている」は60代47.0%、70代以上44.6%、40代43.6%の順になっています。「取組内容（自然環境の保全と地域資源の活用）も含めて知っている」は70代以上6.8%、50代6.3%、40代6.2%の順になっています。

行政区別でみると、「知らない」は駿河区 54.8%、清水区 52.0%、葵区 47.7%の順になっています。「登録されていることは知っている」は葵区 42.1%、清水区 41.4%、駿河区 41.1%の順になっています。「取組内容（自然環境の保全と地域資源の活用）も含めて知っている」は葵区 8.5%、清水区 5.4%、駿河区 3.4%の順になっています。

問2　あなたは、この1年間に環境に関するボランティア活動(清掃活動、環境保護活動など)に参加しましたか。(○は1つ)

この1年間の環境に関するボランティア活動(清掃活動、環境保護活動など)への参加頻度については、「参加していない」が76.5%と最も多く、次いで「ときどき参加している(年1～3回)」18.9%、「よく参加している(年4回以上)」3.5%となっています。

また、『参加している』(「よく参加している(年4回以上)」+「ときどき参加している(年1～3回)」)は22.4%となっています。




性別でみると、「参加していない」は男性72.4%、女性80.5%となっています。『参加している』は男性26.8%、女性18.7%となっています。

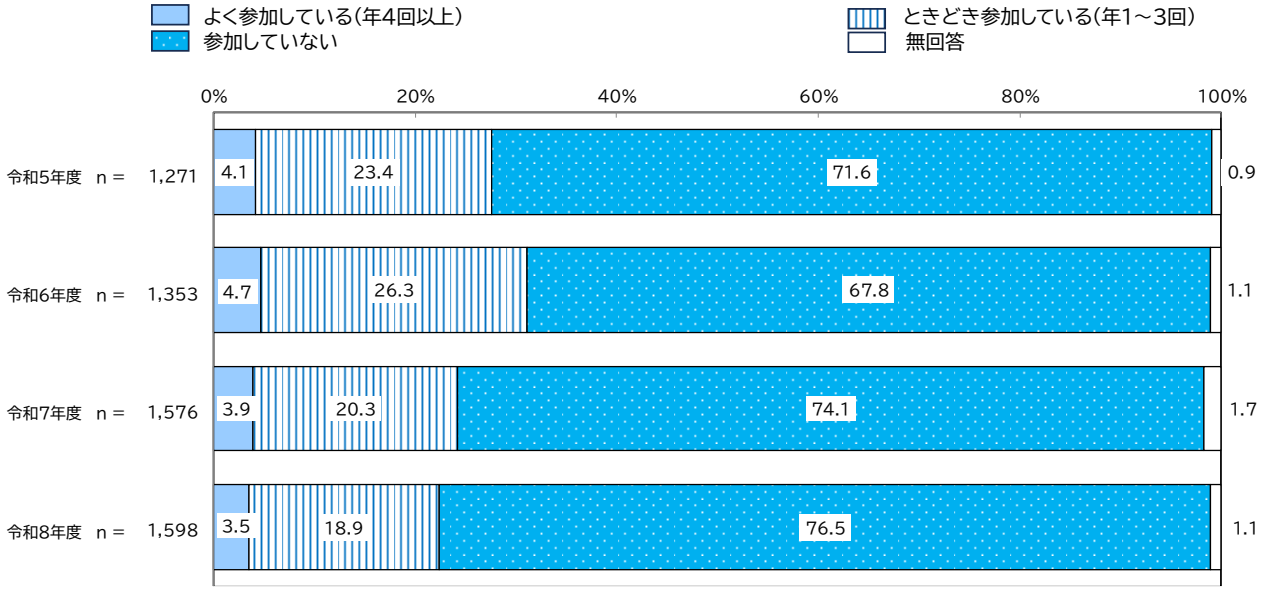
年代別でみると、「参加していない」は20代88.6%、30代88.5%、10代84.0%の順になっています。『参加している』は70代以上30.3%、60代23.7%、50代22.5%の順になっています。

行政区別でみると、「参加していない」は駿河区80.1%、葵区75.8%、清水区74.6%の順になっています。『参加している』は清水区24.3%、葵区23.0%、駿河区19.7%の順になっています。

## 令和５年度～８年度の経年比較

この 1 年間の環境に関するボランティア活動（清掃活動、環境保護活動など）への参加頻度については、『参加している』は令和 8 年度 22.4%となっています。令和 7 年度 24.2%より 1.8 ポイント減少しています。

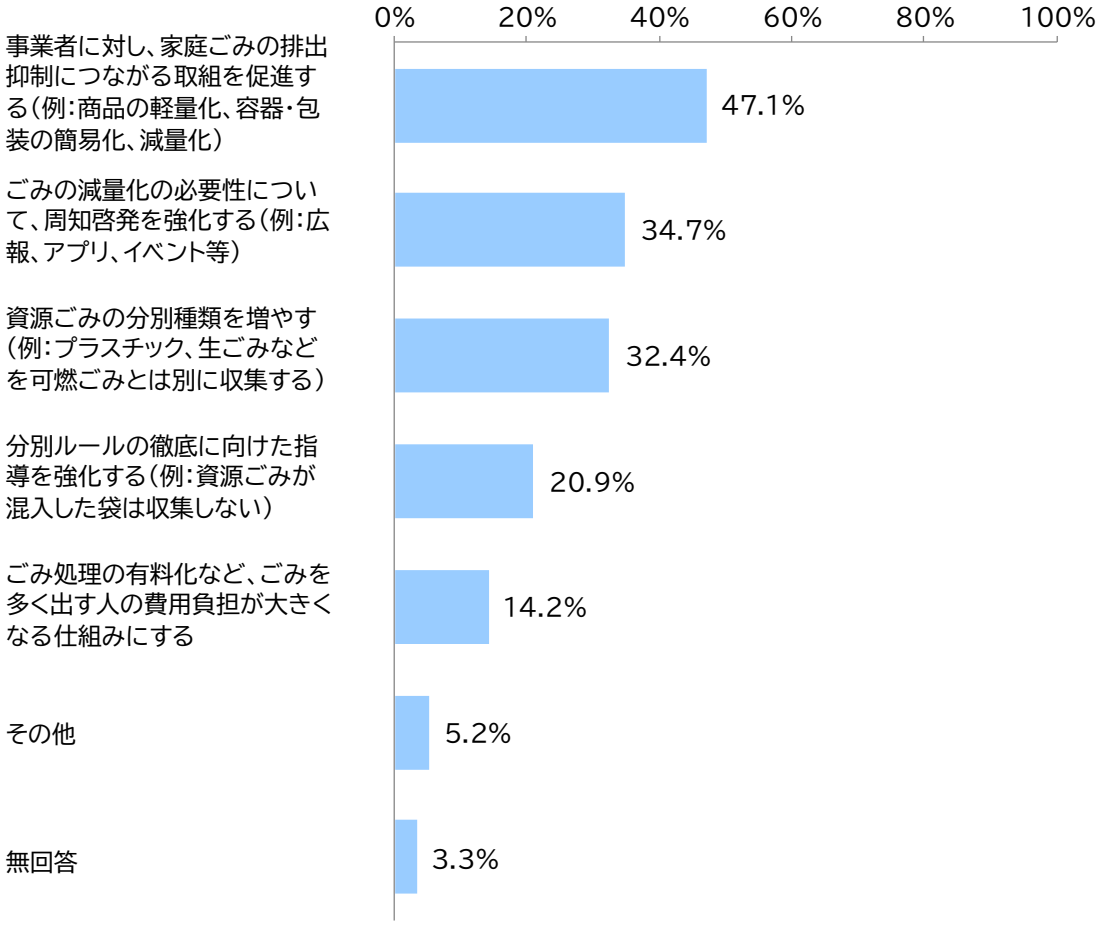
「参加していない」は、令和 8 年度 76.5%となっています。令和 7 年度 74.1%より 2.4 ポイント増加しています。



問3　あなたは、家庭の可燃ごみを削減するために、静岡市はどのような取組をした方が良いと思いますか。（○はいくつでも）

家庭の可燃ごみを削減するために、静岡市はどのような取組をした方が良いと思うかについては、「事業者に対し、家庭ごみの排出抑制につながる取組を促進する（例：商品の軽量化、容器・包装の簡易化、減量化）」が47.1%と最も多く、次いで「ごみの減量化の必要性について、周知啓発を強化する（例：広報、アプリ、イベント等）」34.7%、「資源ごみの分別種類を増やす（例：プラスチック、生ごみなどを可燃ごみとは別に収集する）」32.4%、「分別ルールの徹底に向けた指導を強化する（例：資源ごみが混入した袋は収集しない）」20.9%などとなっています。

n = 1,598



単位:%

| | | 調査数（人） | 事業者に対し、家庭ごみの排出抑制につながる取組を促進する（例：商品の軽量化、容器・包装の簡易化、減量化） | ごみの減量化の必要性について、周知啓発を強化する（例：広報、アプリ、イベント等） | 資源ごみの分別種類を増やす（例：プラスチック、生ごみなどを可燃ごみとは別に収集する） | 分別ルールの徹底に向けた指導を強化する（例：資源ごみが混入した袋は収集しない） | ごみ処理の有料化など、ごみを多く出す人の費用負担が大きくなる仕組みにする | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | 1598 | 47.1 | 34.7 | 32.4 | 20.9 | 14.2 | 5.2 | 3.3 |
| 性別 | 男性 | 714 | 46.5 | 34.2 | 30.7 | 19.3 | 16.1 | 5.7 | 2.4 |
| | 女性 | 839 | 48.6 | 34.9 | 34.1 | 22.3 | 13.0 | 4.3 | 3.5 |
| 年代別 | 10代 | 25 | 32.0 | 28.0 | 36.0 | 32.0 | 24.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 20代 | 105 | 43.8 | 43.8 | 21.0 | 24.8 | 9.5 | 5.7 | 0.0 |
| | 30代 | 156 | 53.2 | 30.1 | 28.2 | 15.4 | 11.5 | 3.8 | 2.6 |
| | 40代 | 195 | 47.2 | 33.8 | 28.2 | 16.4 | 14.9 | 7.2 | 0.5 |
| | 50代 | 315 | 47.3 | 34.0 | 28.9 | 20.0 | 14.0 | 8.9 | 1.9 |
| | 60代 | 283 | 48.8 | 34.6 | 38.2 | 20.8 | 13.1 | 3.5 | 1.8 |
| | 70代以上 | 502 | 46.6 | 35.7 | 36.1 | 23.3 | 16.1 | 3.2 | 6.8 |
| 行政区別 | 葵区 | 554 | 46.9 | 36.3 | 32.7 | 19.9 | 13.4 | 6.1 | 3.1 |
| | 駿河区 | 467 | 46.7 | 32.3 | 33.2 | 22.3 | 16.7 | 4.9 | 3.2 |
| | 清水区 | 485 | 47.0 | 36.1 | 31.5 | 20.8 | 13.0 | 3.7 | 2.9 |

性別でみると、「事業者に対し、家庭ごみの排出抑制につながる取組を促進する（例：商品の軽量化、容器・包装の簡易化、減量化」は男性46.5%、女性48.6%となっています。「ごみの減量化の必要性について、周知啓発を強化する（例：広報、アプリ、イベント等）」は男性34.2%、女性34.9%となっています。

年代別でみると、「事業者に対し、家庭ごみの排出抑制につながる取組を促進する（例：商品の軽量化、容器・包装の簡易化、減量化」は30代53.2%、60代48.8%、50代47.3%の順になっています。「ごみの減量化の必要性について、周知啓発を強化する（例：広報、アプリ、イベント等）」は20代43.8%、70代以上35.7%、60代34.6%の順になっています。

行政区別でみると、「事業者に対し、家庭ごみの排出抑制につながる取組を促進する（例：商品の軽量化、容器・包装の簡易化、減量化」は清水区47.0%、葵区46.9%、駿河区46.7%の順になっています。「ごみの減量化の必要性について、周知啓発を強化する（例：広報、アプリ、イベント等）」は葵区36.3%、清水区36.1%、駿河区32.3%の順になっています。